



平成30年2月9日

各位

会社名 カネ美食品株式会社
 代表者名 代表取締役社長 三輪 幸太郎
 (JASDAQ・コード2669)
 問合せ先 経理財務部長 伊藤 誠
 TEL 052-879-6111 (代表)

特別損失（減損損失）の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成30年3月期第3四半期決算において、特別損失（減損損失）を計上するとともに、最近の業績の動向等も踏まえ、平成29年11月9日に公表の業績予想を修正いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 特別損失（減損損失）の内容

当社の外販事業の収益性の低下により「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき将来の回収可能性を検討した結果、平成30年3月期第3四半期決算において、外販事業の固定資産の一部の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、5億9百万円を減損損失として特別損失に計上いたしました。

2. 業績予想の修正

平成30年3月期通期業績予想数値の修正（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 91,410	百万円 △1,080	百万円 △1,000	百万円 △280	円銭 △28.45
今回修正予想 (B)	89,830	△1,320	△1,230	△1,270	△129.05
増減額 (B-A)	△1,580	△240	△230	△990	
増減率 (%)	△1.7	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成29年3月期)	88,258	498	582	△514	△52.08

【修正の理由】

通期の業績予想については、平成29年1月から実施されたファミリーマートとサークルKサンクスブランドの商品統合に伴って低下した外販事業の製造効率の早急な改善を図るため、ロスの削減や荒利率の改善、経費の抑制を進めてまいりましたが、業績回復のためにはより一層の改善策が必要であることに加えて、中部・関西地区のファミリーマート向けの売上高が計画より下回っていることや納品店舗の看板替えによる休業や想定以上の閉店も要因となり、前回公表の業績見込みを下回る見込みとなりました。

当期純利益については、第3四半期累計期間において、投資有価証券売却益（8億87百万円）を計上するという上乗せ要因があったものの、外販事業の収益性の低下による減損損失（5億9百万円）の計上や繰延税金資産の回収可能性の見直しによる法人税等調整額の増加が主な要因となり、前回公表した数値を大きく下回る見込みとなりました。

これらを踏まえた上で当社は、業績回復のために更なる改善を推し進めて参ります。

その改善策を進めていく過程において、場合によっては保有資産の見直しによる減損を含めた特別損失を新たに計上する可能性はありますが、業績回復・改善に向けての必要不可欠な施策と考えております。

現時点においては、保有資産の見直しによる新たな減損等の発生は未定であり、また、計上する際には監査を経た上で額が決定されるため、その部分においても未確定ではありますが、新たな影響額が発生する場合には、確定次第お知らせいたします。

(注) 上記の業績予想の修正については、現時点において合理的であると判断する情報に基づき作成しており、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上